



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和5年2月10日 第53号 文責 渡邊

大切にしたい、五感を働かせた体験活動を！

今回は、『子どもが心配 人として大事な3つの力』（養老孟司著 PHP研究所 2022年3月）を読んで思ったことを記したいと思います。

※養老氏と小児科医の高橋氏との対話から

◆ネットの過剰利用がもたらす「実体験の減少」

高橋 もう一つ、少子化と同様に違和感を抱いているのが、インターネットの過剰利用です。先ほどの情報処理の話にも通じるテーマですが、大前提として申し上げたいのが、私はネットの存在自体を否定したいわけではないということです。

ネットはある面では間違いなく我々の生活を豊かにしているし、今日もこうしてオンラインツールを利用して、養老先生とお話しできているわけですから、それでもなお、私はネットの弊害を見過ごすことはできません。

どんな弊害があるのか。大きく「無言化」「孤立化」「実体験の減少」の3点を指摘できます。なかでも、3つ目にあげた「実体験の減少」は、特に危惧すべき現象だと思えますね。わかりやすい例がコミュニケーションです。ネットに関わっている時間が長くなると、人はどうしてもしゃべらなくなります。つまり「無言化」。また一人でいる時間が長くなります。つまり「孤立化」。そうして無意識のうちに仕事や日常から、「実体験としてのコミュニケーション」が抜け落ちていく。

それにもかかわらず「コミュニケーションがとれている」と錯覚してしまう。そこがネットの一番怖いところです。

いまや多くの方がSNSなどを介して、無数の人々とバーチャル空間でつながっています。そして、コミュニケーションがとれていると「錯覚」している。

しかし、オンライン上のコミュニケーションは対面とは異なり、五感の全てを用いているわけではありません。バーチャル空間の映像の相手に使っているのは視覚と聴覚、あとはチャットなどの場面でキーを打つときに感じる指先の触覚といったところでしょうか。

実体験としてのコミュニケーションは、脳細胞が形成するネットワークに広く五感が働きかけるものですよ？一方のネット上のコミュニケーションは、特化した感覚が脳細胞そのものを直で刺激するようなものではないか。だとしたらバーチャル空間では、人間の閾値(いきち)を超えるような強い刺激が脳細胞に伝わっていることになります。これは、生物学的にみても異常な状態で、うすら寒い心持ちすら覚えます。こうした状況を放置しておく、私たちの五感がいつしか麻痺していく気がするんです。(中略)

実際に、人は死んでも生き返るのだろうと信じている子供に出会ったことがあります。それは稀な例としても、リセットボタンを押せばやり直せるゲームとは異なる現実の世界で、丁寧に人間関係をつくっていくことを面倒に思う子がいてもおかしくない。そんな子供は、現実の世界から逃げ出して、ますますゲームの世界にのめり込んでしまうでしょう。単純化されたゲームの世界に慣れすぎてしまうのは、危ういことだと思います。

ネットでは、バーチャル空間でまるで本物のような体験を得ることができても、現実世界での実体験は増えないどころか減っていくばかりです。結果的に、人間関係が「五感に頼らない、または五感がスポイルされたコミュニケーション」に埋め尽くされていくのではないかと。そこを私は一番心配しています。(p69～p72)

五感を働かせた学びはとても大切であると思います。桑村小学校は豊かな自然に囲まれ、とても素敵な教育環境にあります。そして、保護者や地域の方々の応援により様々な体験活動を行うことができます。

また、生命の尊さを学ぶことも大切な学習です。私は、2月20日(月)に卒業を迎える第6学年児童を対象に『生命(いのち)の教育』を計画しています。これまでも卒業する子供たちに、授業を通して生命の尊さを伝えてきました。そして、大好きな桑村小学校の6年生とも『生命の教育』を行えることを今から楽しみにしています。

<p>生命(いのち)の教育</p>  <p>桑村小学校 渡邊 衛</p>	<p>新しい生命(いのち)</p> <p>生命の バトン</p> 	<p>名前に込められた思い</p> <p>皆さんの名前には、どうい う意味が込められているの でしょうか</p> 
<p>卒業証書 名前と生年月日</p> <p>生まれてきてくれてありがとう</p> 	<p>小さな命の輝きの誕生</p> <p>名前には、大きな願いが 込められています</p> <p>世界でたった一つの名前</p>	<p>皆さんが生きるこれ からの社会は？</p> <p>大切な力とは、どう いう力でしょうか？</p> 
<p>卒業するみなさんへ</p> <p>大切にしたい 感謝の心</p> 	<p>「ありがとう」の気持ち</p> <p>「ありがとう」の言葉 人は、とても幸せになれる</p> 	<p>この授業で伝えたいこと 生命(いのち)を大切に</p> 

※『生命の教育』のパワーポイント資料の一部より

昨年4月に桑村小学校に赴任し、1年が経とうとしています。

ここで、80名の子供たち、保護者、そして、地域の方々と出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。人は生を受けてから、多くの方々のおかげで成長していきます。また、人と人との出会いは、奇跡であると言われる。世界の人口を約72億人とすると、同じ学校や職場の人と出会うのは、240万分の1だそうです。そうした奇跡の中、桑村小学校で私は皆さんと出会うことができました。

また、私は「一期一会」という言葉を大切にしています。「人との出会いをつねに大切に」と、茶の湯の教えを説いた言葉であると言われていています。ここでの出会いもまさに「一期一会」です。

これから未来に生きる6年生の子供たちには、自分や他者の生命を尊び、自分たちを支えてくれた様々な人たちに対する感謝の気持ちを持ち、これからのいくつもの出会いを大切にしていって欲しいと願っています。

さて、最後に『生命の教育』では、五感を働かせて、様々なことを感じ考える6年生の姿が見られることを楽しみにしています。